

# 学校関係者評価委員会報告書

学校法人菅原学園 専門学校デジタルアーツ仙台では、本校の学校関係者評価委員会規定に基づき委員会を実施いたしました。以下に議事進行についてその内容をご報告いたします。

今後は、各委員からの貴重な意見や提案を真摯に受け止め、学校運営の改善および教育の質の向上に努力いたします。

会議名：学校関係者評価委員会

日時：平成30年8月9日（木） 15:00～16:30

会場：専門学校デジタルアーツ仙台 1階 小会議室

出席予定者：学校評価委員会、事務局

## 1. 学校関係者評価委員及び事務局について

### （学校関係者評価委員）

氏名	所属等
委員長 渡邊 孝博	株式会社 オンサイト 代表取締役（委員長）
副委員長 島貫 秀行	株式会社 ギグス 代表取締役（副委員長）
岸浪 行雄	株式会社 東北共立 代表取締役
佐々木 和夫	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会理事
金子 篤	株式会社 ピコラ 代表取締役
金塚 弘	株式会社 メディアPR 代表取締役
山本 一平	有限会社 アノンピクチャーズ クリエイティブディレクター
菊地 新生	NPO 法人 とっておきの音楽祭 事務局長
落合 泰朗	本町新光町内会 会長
餅 祐一	卒業生（俳優、タレント業）

### （事務局）

氏名	所属等
戸叶 一人	専門学校デジタルアーツ仙台 教頭
櫻井 潤	専門学校デジタルアーツ仙台 教頭
井村 修	専門学校デジタルアーツ仙台 教務課長
鈴木 理	専門学校デジタルアーツ仙台 学生課長
三浦 和音	専門学校デジタルアーツ仙台 教諭（議事録作成）

## 2. 委員会次第

・開会	戸叶教頭
・事務局（デジタルアーツ仙台）紹介	
・学校関係者評価委員紹介	
・学校関係者評価に係わる説明	櫻井教頭
・就職状況について	鈴木学生課長
・入学状況について	櫻井教頭
・自己点検報告	渡辺委員長
・討議、意見交換	各委員
・閉会	櫻井教頭

## 3. 討議、意見交換

### （1）教育理念・目標

事務局側より、業界でのニーズを把握するためにもより一層の企業連携を検討しているとの目標が提示された。教員研修を実施しているが、積極的に外部のセミナーなどにも参加し、教員自身が業界で必要とされていることをきちんと把握することを目標としていると報告。

### （2）学校運営

事務局側から学園全体での経営戦略会議を活発に行うようになったことを報告。

委員側から昨年度の改善項目に挙がっていたシステム整備についての改善はされているか？との意見に対し、事務局側は旧システムからの切り替えが思うように進んでいないことを報告。これに関しては予算も絡む部分でもあり学園全体で改善を目標に掲げている。今後は保護者がHPから学生の出席を閲覧できるようなシステムを検討している。またこのシステムが実現することにより、委員側から除退率改善も見込めるのではないかという意見も出た。

### （3）教育活動

事務局側から声優科はプロダクションなど外部から評価される機会を多く取り入れ、昨年より多くのアドバイスを頂いていることを報告。委員側から今後は、他の科でも、外部からより多くのアドバイスを頂くようにすると良いのでは？との意見が出た。

委員側からインターンシップを行っている企業から学生にたいして評価をしているが、コミュニケーションスキルももちろん必要ではあるが、物を作るスキルが必要なことも大切であるという意見が出た。また、委員側から最新技術に関しては、業界に入ってから教えられるので学校では基礎をしっかりやっていただきたいという意見が出た。事務局側は、今後も、企業が望む人材像を把握し教育活動に反映することを報告。

#### (4) 学修成果

事務局側から就職に関する項目について昨年度より評価が下がっている点について、新規求人開拓等が不足しているとの回答があった。就職率は昨年より上がっているが学校努力ではなく、世の中の流れを受けて求人倍率が上がっているため就職が決まっている。仙台に企業が進出していることもあり今後更なる企業連携を検討していく必要があると報告。

委員側からは、社会人としてハキハキとして元気のよい（挨拶・返事など）学生を企業としてはとりたい。自己表現のしっかり出来る学生が欲しい。学校でも人間力を伸ばしていくような教育を目指してほしいとの意見が出た。また、本校の生徒はもっと物事に対して積極的に活動すべきであるとの意見も出た。

ビジネスメールがきちんと書けていないとの指摘があり、友人へ連絡するような感覚で企業へ返答が来る場合が非常に多いとの指摘を受けた。ツールによって文書の使い分けをするような指導を行ってほしいとの意見が出た。企業へ入ったあとは、能力の伸び率は高いので入口の部分をしっかり指導してほしいとのこと。

その他、実際にどれほどの徐退率があるのかという質問が委員側からあり、事務局側は 7.9%と回答をした。退学防止対策として、授業についていけるかどうかは、ある程度の基礎学力が必要である。オープンキャンパスなどでも高校生に対して、基礎学力の必要性を入学前に説明する必要があるとの指摘を受けた。

#### (5) 学生支援

事務局側から昨年保健室の導入を検討していたが、実現はしていない。健康診断や個別面談等でこまめに学生の確認を取るようになっている。

出席指導に関しては、保護者への連絡をこまめに取りよう教員に指導を行っている。また、クラス担任は、毎週、出席指導に関する報告書を教頭に提出し出席指導対策を行っている。

経済的に困難な学生が入ってくる割合が比較的高く、「専門学校生への効果的な経済的支援の在り方に関する実証研究事業」（文科省管轄）の対象校となり、菅原学園独自の奨学金制度の他に、経済的支援をうけている学生が約 20 名程度いる。対象の学生に対しては、学業の目標達成調査・ライフプラン等の講習会等を行っている。

委員側より進路就職の支援体制について評価をあげるにはどう対策していくかという質問があった。これに対して、事務局側は、今年度はキャリアサポートセンターの内容を見直し、以前は担任による就職指導が中心だったが、今年度からは、キャリアサポートセンターが担任をバックアップするようになっていると報告。

#### (6) 教育環境

防災に対する点の評価が上がっている件について、災害時の備蓄等を見直し地域全体で協力し防災に取り組んでいる。今後は学校を避難所として開放できるような体制も検討していく。町内会の避難所としては錦町公園を設定している。長期的になる場合は近隣の小学校単位で避難をすることを想定している。

#### (7) 学生の受け入れ募集

委員側より特定の学科の募集が低くなっている点について適正に行われているのか？ 意見が出た。事務局では高校でのガイダンスの数を増やす、科ごとにDMを発送するなど対策を行っている。また科の再編成などを検討しているとの回答があった。

また、委員側からプロモーションに関して、数年前とはアプローチの仕方は変わっているので、ツールを限定せず広げていけば効果が出るのではないかと？ 必要な世代に必要な量だけ広告を出すようにしては？ との意見が出た。他にも学生だけでなく、保護者への広告アピール、たとえばTVCMを流すことにより、TVCMを出せるような学校である安心感を与えるのではないかと？という意見も出た。

その他、他校と比べた際にパンフレットを読むところまで持っていけるかが学生募集では重要なのではないかと？ との意見も出た。

#### (8) 財務

HP上で公開しており、適切であると判断された。

#### (9) 法令等の遵守

適切であると判断された。

#### (10) 社会貢献・地域貢献

事務局側から、学生ボランティアについての項目の評価が下がっている点については、科によってバラつきがあるため、今後は、他の学科にも広げていけるよう開拓等を行うことを報告。(ミュージックスタッフ科、声優科は社会貢献・地域貢献のイベントにボランティアスタッフとして多数参加している。)

また、委員側より本校のイラスト・マンガアニメ科の学生が制作したキャラクター「中央特殊警察 七夕戦隊 ナナボシ」が発表された件について、就職には結びつかないかもしれないが、社会のニーズとして必要とされており、今後もこのような形で社会貢献して欲しいとの意見が出された。

その他、小学生、中学生などを対象にした講座なども検討していけるのではないかと？の提案がなされた。

#### (11) 国際交流

現在留学生の人数は1、2年生を合わせ100名前後が在籍しており適切であると判断された。

### 4. 配布資料

- ・ 入学パンフレット
- ・ 入学及び就職状況
- ・ 自己評価表